学校法人 四條畷学園 平成23年度 事業報告書

Ver 1 F

目 次

1.	法人の概要		2
١.	ムハの地女	·	_

建学の精神 教育理念 教育方針

沿革

設置する学校・学部・学科等

学校法人の組織構成図

学校・学部・学科等の入学定員、学生・生徒・児童・園児数の概要

役員・教職員の概要

(1)理事会 (2)評議員会 (3)教職員数

2. 事業の概要

9
1 0
1 2
1 4
1 6
1 9
2 1
2 3

消費収入について 消費支出について

1. 法人の概要

■建学の精神

報恩感謝

本学園は、牧田宗太郎、環兄弟によって大正15年(1926年)に設立されました。兄弟は、自分達が教育界・実業界で世の役に立つことができたのは厳しい中にも慈しみ深い愛情をそそぎ、教育してくれた母がいたからこそだと、母への感謝と敬愛の念をつねに胸に深く抱いていました。

そして、母に対する報恩の心を表すために、史情豊かな四條畷の地を選び、ここに教育の理念 を実現させるべく学校を建てようと念願されました。このようにして本学園の母体となった四 條畷高等女学校が設立され、母に対する報恩感謝の念が具現化されたのです。

この至純なる精神は、本学園建学の精神として後世に引き継がれ、今日の総合学園に至る発展の歩みを支えるものとなっています。

(この説明文は本館の前にある創立者牧田宗太郎先生、牧田環先生のレリーフ碑に記載された 文章をもとに作成しました。)

■教育理念

人をつくる

教育の目的は人をつくることであり、人をつくることは、徳、知、体三育の偏らざる実施とその上に立つ品性人格の陶冶に依ってのみ可能です。

• 実践躬行

品性人格は、単に知識を身につけるだけではなく、身を以て実際に行うことにより習得されます。

Manners makes man礼儀正しい行いを身につけることが、人として成長し、品性人格の備わった人になることにつながります。

(これは、四條畷高等女学校の教育方針の前文と本館の飾り煉瓦にある牧田宗太郎先生が自ら 刻まれた言葉から構成しています。)

■教育方針

個性の尊重

個々の人が持つ異なる性格と特色ある才能とを尊重し、これを画一化することなく、それぞれ の天賦の才能を探求し、発揮させます。

明朗と自主

自分たちの未来を信じて、明るく朗らかで、何事にも自主的、積極的に取り組む人を育てます。



実行から学べ

知識は実践を伴ってこそ価値があることを知り、「知って行い、行って知った」という課程を 通じて学ぶ人を育てます。

礼儀と品性

礼儀と礼節を重んじ、自らの教養を磨く、品性豊かな人を育てます。

(高等女学校設立当時の教育方針を尊重し、「個性の尊重」「明朗と自主」「実行から学べ」に 「礼儀と品性」を追加しました。設立当時は四点目が「貞淑にして温雅」ですが、今の時代にあ わせた表現に変更しました。)

■沿革

大正 1 5 (1926) 年 4 月 四條畷学園高等女学校開校(古川橋)



昭和 4 (1929) 年 6月

本館竣工



昭和11	(1936)	年 1	〇月	創立 1 0 周年記念祝賀会
昭和16	(1941)	年	4月	幼稚園開園
昭和22	(1947)	年	4月	中学校開校
昭和23	(1948)	年	4月	高等学校(新制)開校
				小学校開校
昭和39	(1964)	年	4月	短期大学開学(家政科)
昭和42	(1967)	年	2月	創立40周年記念 新体育館兼講堂竣工
昭和47	(1972)	年	4月	家政科を児童教育学科に転科
昭和51	(1976)	年 1	1月	創立50周年記念式典挙行
平成 元	(1989)	年		短期大学教養学科開設

平成3 (1991) 年臨床心理研究所 (ICP) 設置平成8 (1996) 年創立70周年記念行事挙行

平成12(2000)年 短期大学国際コミュニケーション学科開設

平成13(2001)年 短期大学リハビリテーション学科開設

平成16(2004)年 短期大学ライフデザイン総合学科開設

同教養学科・国際コミュニケーション学科廃止

リハビリテーション総合研究所設置

平成 1 7 (2005) 年 大学開学

平成18(2006)年 創立80周年記念行事挙行

短期大学清風学舎竣工



平成 19 (2007) 年 短期大学介護福祉学科開設

平成21(2009)年 短期大学リハビリテーション学科廃止

平成22 (2010) 年 中学校 六年一貫コース新設 全学同窓会事務局設置・同ホームページ開設



平成 2 3 (2011) 年 全学同窓会誌「若楠会報」発行 全学同窓会名簿発行

第二飯盛校舎着工

平成24 (2012) 年 短期大学ライフデザイン総合学科総合福祉コース開設 (介護福祉学科募集停止)



■設置する学校・学部・学科等

(1) 四條畷学園大学 学長:河井 秀夫

学部 リハビリテーション学部 学科 リハビリテーション学科

(2)四條畷学園短期大学 学長:河井 秀夫

学科 保育学科

ライフデザイン総合学科

介護福祉学科

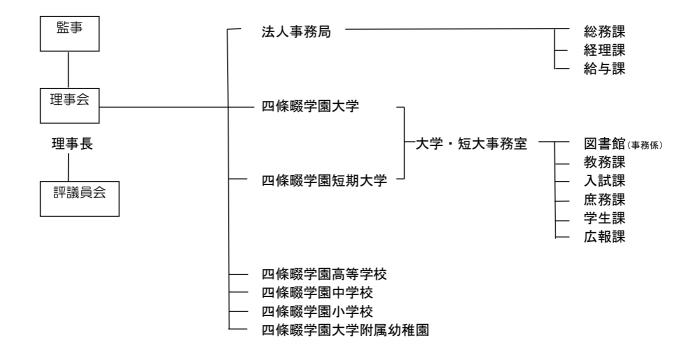
(3) 四條畷学園高等学校 校長:高山 光夫

(4)四條畷学園中学校 校長:梶尾 晃

(5) 四條畷学園小学校 校長:北田 和之

(6) 四條畷学園大学附属幼稚園 園長:中西 邦枝

■学校法人の組織構成図(平成23年5月1日)



■学校・学部・学科等の入学定員

学生・生徒・児童・園児数の概要(平成23年5月1日現在)

14.55	W 40 W 51 F 44	定員		現員					合計			
校園	学部・学科名等	入学 定員	収容 定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	2 3 年度	2 2 年度	前年比 増減
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	40	160	47	44	53	54			198	184	14
大 学	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	40	160	42	25	14	38			119	113	6
	合 計	80	320	89	69	67	92			317	297	20
	保育学科	100	200	98	85					183	184	▲ 1
短期大学	ライフデザイン 総合学科	100	200	92	104					196	217	▲21
短 期 八子	介護福祉学科	40	80	21	33					54	48	6
	合 計	240	490	211	222					433	449	▲16
高等学校	1	*375	1, 320	468	432	426				1326	1328	▲ 2
中学校	1	*170	600	184	168	181				533	529	4
小学校	_	*90	648	91	99	99	95	99	99	582	589	▲ 7
幼稚園	_	*125	405	136	133	136				405	394	11
合 計		1, 080	3, 773	1179	1123	909	187	99	99	3, 596	3, 586	10

^{*} 高等学校、中学校、小学校、幼稚園の入学定員欄は募集定員を示す。

■役員・教職員の概要

(1) 理事会

■理事 定員:6人以上9人以内 現員:8人 うち外部理事(*):2人

理事長 川﨑 博司 理事 清澤 悟 理 事 伊泊 規子 理 事 河井 秀夫 理 事 石村 哲代 理 事 梶尾 晃 牧田 朝美 理 事 理事 木寅 文雄

■監事 定員:2人 現員:2人

 監事
 田中條雄

 監事
 佐藤多加志

(2)評議員会

■評議員 定員:13人以上32人以内 現員:26人

第1号評議員: 2人(1人以上3人以内)(法人職員)

尾村 和彦、中橋 健司

第2号評議員: 2人(1人以上3人以内)(卒業生)

牧田 朝美、大西 寛治

第3号評議員:21人(10人以上25人以内)(学識経験者)

清澤 悟、伊泊 規子、三村 龍三、西尾 信夫、繁原 秀孝、横田 将憲、

辻 一郎、米原 信夫、山内 康俊、小南 市雄、植田 恭平、

河井 秀夫、森永 敏博、石村 哲代、高山 光夫、梶尾 晃、北田 和之、

中西 邦枝、木寅 文雄、日笠 賢、渡邊 忠夫

第4号評議員: 1人 (1人)(理事長)

川﨑 博司

(3)教職員数(平成23年5月1日現在)

	教員				職員等						
	校園		常勤	嘱託	兼務	本務	嘱託	兼務	理事	監事	合計
	大学	21		2	18	3	2	4			50
	保育学科	8		1	32	4	2	8			55
	ライフデザイン 総合学科	7	2	1	24	2	6	11			53
短期大学	介護福祉学科	6			3			2			11
	音楽教室			1	7			4			12
	合計	21	2	3	66	6	8	25			131
Ē	高等学校	60	1	3	39	7	7	28			145
	中学校	40	2	1	11	2		1			57
	小学校	28	2	1	7		1	6			45
	幼稚園	16		3	1		1	23			44
法人本部						1		1			2
学外理事等									3	2	5
	合計	186	7	13	142	19	19	88	3	2	479

2. 事業の概要

当年度に実施した主な事業

■法人

(1)財政基盤の強化について

①収入の確保

収入の安定的な確保の為在籍者数を増やすことに注力しました。その結果。24年度の 学園全体の在籍者数は昨年度より79名増加し3.675名となりました。

②予算管理の強化と経費の圧縮

新たに導入した経費管理システムにより予算管理を試行し、水道光熱費等物件費を中心 に経費の削減を図りましたが十分ではありませんでした。

③収益事業

課外教室等の収益事業の収入が昨年度比11,200千円増加し115,700千円となりました。

- (2) 内部統制とスクールガバナンスについて
 - ①理事会、評議員会、常任理事会を定期的、適宜開催し、学校運営上の重要事項について チェックしています。
 - ②情報公開を一層進めるため22年度決算分より校園別の資金収支内訳書、消費収支内訳書 についてもホームページに掲載しました。
- (3) 各校園との連携強化について
 - ①校園長会議、教頭会議、各種委員会、連絡会等定期的、適宜に開催して各校園での情報 や課題を共有し、連携を強化しています。
 - ②各校園の行事や授業等を紹介する映像を毎月1本製作し学園内の食堂やロビーに設置し4台のモニターで放映しました。

これにより各校園での主要な教育内容が自校園以外の教職員や生徒等にも知らせることができました。

(4) 学生満足度の向上について

1高等学校

本館及び本館増築の空調更改、リニューアルを実施しました。空調は省エネルギー タイプの機器を導入しました。

また、テニスコートの階段の改修、弓道場の通路整備も実施しました。

②短期大学

北条学舎について外壁剥離調査を実施し必要な復旧工事を行いました。また、屋上の防水工事も実施しました。

③大学

屋上の防水工事を実施しました。

- (5) 高等学校の新校舎(第二飯盛嶺校舎)の建築について 予定通り23年10月着エし、順調に進捗しています。24年10月に竣工する予定です。
- (6) 同窓会活動の支援
 - ①同窓会名簿の発行 平成23年5月に発行しました。掲載会員数は50,912名です。
 - ②同窓会誌の発行

平成23年4月に同窓会誌「若楠会報」第1号を発行し同窓生に送付しました。 発行部数は26,400部です。

③その他

昨年度に引き続き24年1月9日に第2回「母校で成人を祝おう会」を開催しました。中成人を迎えた中学校の卒業生110名が出席しました。

■大学

(1)教育体制の充実

- ①平成24年度の理学療法学専攻4年次の総合臨床実習先病院について、学生数を考慮して90以上の病院を確保するとともに、実習指導者会議等を開催し、臨床実習教育のさらなる充実を図りました。
- ②期間を設けて、原則すべての授業を公開し、教員相互による評価・意見交換を実施しました。 また、教務情報システムを利用した学生による授業評価を行い、科目担当者ごとに反省点と 改善点を明確にするようにしました。
- ③パソコン教室とパソコン自習室のPCを最新のものに更新するとともに、パソコン自習室の 使用を自由にし、授業の効率化と学生の利便性向上を図りました。
- ④運動療法実習室にプロジェクター装置を増設しました。
- ⑤学生ラウンジや自習室に無線 LAN 装置を設け、IT環境の改善を図りました。
- (2) 研究活動の活性化
 - ①以下の教育研究装置、機材の購入・設置を行い、研究活動を設備面からサポートしました。
 - ・VICON 動作解析装置の新ソフト(Visual 3 D)の購入
 - ・脳機能評価用赤外線酸素モニター装置の購入・設置
 - ・笑顔度を測定する機器「スマイルスキャン」一式を購入
 - ②日本学術振興会の科研費補助金として、平成23年度~平成25年度に亘り、挑戦的萌芽研究として坂口教授の「魚介肉における「こく」の発現と隠し味の効果」が認可されました。
- (3) 学生募集

平成24年度入試は、公募推薦入試、指定校入試など計13回(延べ日数15日)実施し、 284名の受験者があり、最終入学者は、理学療法学専攻44名(定員40名)、作業療法学 専攻36名(定員40名)計80名となり定員を充足しました。

志願者の拡大および定員の確保に向けて以下の施策を実施しました。

- ①入試方法の多様化の一つとして、大学入試センター主催のセンター入試を利用した入試を新たに実施しました。平成24年1月14日、15日の2日間にわたり、共同開催の試験会場である大阪産業大学に延べ22名の教職員が出向き、試験監督等を行ないました。本学の試験は、A日程(H24.2.3)、B日程(H24.3.6)の2回実施し、39名の受験者があり、最終3名の入学者がありました。
- ②学園高校生に対する指定校推薦入試の時期を、学園高校の先生方との協議により他の指定校 推薦入試日から1ヶ月程度前倒して、平成23年9月10日に実施し、早期に学園高校生の 確保を図りました。最終的に学園高校からの入学者は、理学療法学専攻11名、作業療法学 専攻4名、計15名となりました。
- ③新たな受験データも加えて指定校の見直しをおこない、理学療法学専攻23校、作業療法学 専攻92校を選定し、6月から9月にかけて近隣地区を中心に教員及び職員による効果的な 高校訪問を実施しました。
- ④オープンキャンパスは、6/18、7/30、8/12、8/13、9/3、10/8、11/12、12/24、合計8回実施し、生徒・保護者計287名の参加がありました。

(4) 新カリキュラムに基づく授業実施

文科省に申請し認可された新カリキュラムを平成23年度入学生から実施しましたが、それ以前の入学生には旧カリキュラムを適用しており、新旧カリキュラムを同時並行的に実施することになりました。

(5)新入生基礎学力の向上

- ①平成23年度入学予定者から実施している入学前教育を、平成24年度入学予定者に対しても、10/30、12/24、2/4、3/5の4回実施しました。平成23年度より、講義内容をビデオで撮影し、遠隔地在住等の理由で出席できなかった入学予定者にもDVDを送付し自宅で視聴できるように配慮しました。
- ②基礎専門科目および専門科目履修を容易にするために、例えば「てこの原理」など専門科目の理解につながる理系の一般教育科目を設定し、一般教育課程と専門課程の連携強化を図りました。

(6) 留年・中途退学を防止するための対策

- ①本試験成績不良者に対する指導を徹底し、追・再試験不合格を未然に防止しました。
- ②成績不良者ならびに留年者に対して、面談などによる個別指導を徹底し、学習計画の立て 方や学習方法を指導するなどきめ細かな指導を行ないました。
- ③引き続き、臨床実習での事前学習や実習中における実習状況の確認、実習内容の調整、実 習後には、セミナーや個別面談を通して反省点、課題に対する取組み方を指導しました。

(7) 既卒者に対する支援、研修制度の整備

- ①既卒者の国家試験合格を支援するため、既存の研究員制度を活用して、本学の卒業生に限り、半年間か一年間国家試験合格を目指して、受験指導や図書館等の学内設備の利用が出来るようにしました。
- ②同窓会担当教員を配置し、本学同窓会の組織化を促進するとともに、卒業後の研修活動などを支援しました。

(8) 国家試験対策の充実

- ①理学療法学専攻では、担当教員を1名増やし3名体制にして、前半は毎日、過去問題の小テストを実施し、後半は専門科目を中心に模擬テストを行ないました。また点数によってクラス分けを行い、クラス別に課題を与える等工夫をし、合格率アップに努めました。
- ②作業療法学専攻では、過去の問題を分野別に仕分けし、分野ごとに必要な知識や資料作成の 指導を教員が行い、10月から2月にかけて8回の模擬試験を実施し、合格率アップに努 めました。
- ③国家試験の過去の問題を収録したソフトを購入し、任意に模擬問題を作成し出題率の高い 分野や正答率の低い分野の強化に繋げました。

■短期大学

☆計画全般に対する目標達成について(総括)

全学科とも、平成23年度の全期間を通じ、地域住民や学生からの多様なニーズに積極的に対応し、短期高等教育機関としての使命を果たすべく、どの分野にも適応できる教養ある社会人の育成を目指し、学生の教育力向上と短期大学全ての組織の活性化に積極的に取組んだ点については期初目標の水準に到達したのではないかと判断しています。

(1) 各学科の主な「教学計画」「企画」等(学生の学力、生活力、マナー向上等のための具体的施策)

1)保育学科

「ステージアップセミナー」の内容充実を図り、専門分野のみならず、「高いコミュニケーション能力」を備えた、「美しい立ち居振る舞いのできる」、質の高い学生(なわてジェンヌ)の育成に努めました。またより幅広い保育力を備えた保育者養成のため、新たに「子ども音楽療育士」、「子ども環境管理士2級」などの資格導入準備を進め、平成24年度からの資格取得を可能にしました。(卒業生77名中、保育士、幼稚園教諭2種免許 取得者それぞれ65名)

②ライフデザイン総合学科

時代に即応したカリキュラムの見直しを行い、就職に直結する様々な資格取得ができるよう学生指導を強化しました。同学科では、多くの資格の取得が可能ですが、23年度の卒業生のうち、医療関係、情報関係、ビジネス実務関係などの8資格を取得した学生が5名となりました。また多くの学生が5~7の資格を取得しており、学生指導の面においては期初の目標は達成したのではないかと考えています。

③介護福祉学科

平成23年度が介護福祉学科としての最後の学生募集となりました。学生指導の目標としては、介護福祉士の資格取得とともに、「医療事務関連」「レクリエーション実技」「アロマ」および「リハビリメイク」などに関する様々な資格を取得させ、他の養成施設にはできないような、介護福祉士の育成を目指しましたが、結果的には、介護福祉士資格を取得した24名のうち、二分の一の12名がレクリエーションインストラクターの資格を取得したのに止まりました。(但し、同資格は昨年度の取得は1名のみであり、学科の努力は認められるべきと考えます。)今年度の経験を、24年度以降の「総合福祉コース」の学生指導に、より有効に活用していきたいと考えています。

(卒業生32名中、介護福祉士国家資格 取得者24名)



- ④「客員教授」の陣容充実(学生の教養、社会適応力向上を図るための企画) ほぼ当初の計画どおり、中川 ひろたか氏の講演3回、八木 早希氏は5回(当初計画では 6回)の講演を行い、本学学生の教養、社会適応力の向上のみならず、地域の保育、幼児教育の分野に従事する方々の教養、知識向上にも大いに貢献したものと考えています。
- (2)「総合福祉コース」設置に伴う準備体制の構築(介護福祉学科の改編) 平成24年4月よりのライフデザイン総合学科「総合福祉コース」の開設を目指し、短大の総 力を挙げ「学生募集」と「カリキュラムの改定」等に取組みました。(「総合福祉コース」は介 護福祉学科を発展的に解消し設置するもので、平成25年3月に学科廃止を予定。)

その結果、学生募集(平成24年4月入学)については、コース定員である25名の学生の入学を確保できました。また、カリキュラムの設定についても、当初の計画どおり、ライフデザイン総合学科の「医療福祉エリア」「情報ネットワークエリア」などで取得可能な主要資格についても、「総合福祉コース」で取得できることを可能とするものとしました。

今後、短期大学としては、他の養成施設ではできないような、あらゆる分野に適応できる有能な介護福祉士の育成に全力を尽くします。

(3) 保育学科「総合表現研究所」設立に向けて

当研究所は保育学科の中、長期計画の一環として、地域の乳幼児に関する学術研究の核施設となることを目的として設立を検討するものです。

その目的達成のための準備段階の一つとして、前年度に続き「スキルアップ!なわて保育学講座」を開講しましたが、前述の中川ひろたか客員教授と並んで行った本学専任教員による「子どもの虐待問題」をテーマとした講演は、出席された教育・保育現場の先生方から、日ごろの実践に大いに役立つと好評を博しました。

また年度末には、"春の保育祭"と称して、短期大学2年間の学習成果を問う「総合表現発表会」を例年通り開催、教育・保育の現場の先生方、幼稚園・保育園児、高校生などに広く公開しました。

今後も地域から支持され、期待に応えられるような乳幼児教育に関する研究・学習成果を継続的に公開発表し、本学保育学科ならではの存在価値をアピールしていきます。さらに、平成23年度より「卒業ゼミ」を導入、教員の専門分野を中心とした研究的授業により、学生の資質向上に努めていくとともに、次年度以降も、将来的な研究所設立を視野に入れながら一歩一歩準備を進めていきます。

(4) FD活動の強化(「組織の活性化」「風通しの良い組織作り」を目指して)

期初計画どおり、平成23年度前期からFD活動を全面的に実施しました。「学生による授業評価アンケート」は前後期に実施、従来のマークシートに代え、携帯、パソコンによる回答方法を導入、データ整理・分析などの効率化を図りました。

また、「教員相互の授業参観」についても前後期ともに実施、「授業参観報告書」のインターネットによる一部公開を行い、授業改善につながる工夫やノウハウの共有を教員相互間で行う体制を構築しました。また、平成24年度から、「授業参観報告書」は全面公開することとなりました。

なお、「学生による授業満足度調査」は、平成23年度も昨年度に引続き実施し、「関西FD連絡協議会」の各種講演、会合等にも積極的に参加、情報収集に努めました。

(5) 就職活動支援力の強化

就職希望者に対する就職率は、保育学科95.5%、介護福祉学科96.2%、ライフデザイン総合学科86.8%となりました。

(6) 学生募集

平成24年4月入学生は、保育学科122名、ライフデザイン総合学科71名、ライフデザイン総合学科「総合福祉コース」25名 の合計218名でした。

(入学定員は保育学科100名、ライフデザイン総合学科100名、ライフデザイン総合学科 「総合福祉コース」25名 合計225名)

定員充足率は96.8%となりました。保育学科の入学人員122名が、定員の充足に大きく貢献した半面、ライフデザイン総合学科の入学人員が定員充足率71%となり定員を充足できませんでした。そのため、平成24年度の学生募集は、ライフデザイン総合学科の入学学生を如何にして増加させ、入学定員を確保するかが、短期大学の主要な課題と認識しています。

なお、入学生総数のうち、学園高校よりの内部進学者は120名であり、当初目標とした 110名を大きく上回りました。

また、外部高校よりの本学への進学者を増加させるべく、計画に基づき、短大専任教員も積極的に高校訪問を行いました。(約100校を訪問)平成24年度も引続き、23年度以上に高校訪問数を増加させます。

オープンキャンパスへの高校生の参加人数は、目標の400名を若干ながら下回りました。 このため、平成24年度は、初めて夏休み期間中の土曜、日曜に連続してオープンキャンパスを開催するなど(従来は全て土曜日開催であった。)、より高校生が参加したくなるように、 開催日や内容についても検討を行っていきます。

■高等学校

(1)教育目標の明確化と特色の強化

本校教育の特色を強化し、生徒・保護者に評価され選択される学校になることをめざしました。 そのために、教育活動の根幹となる建学の精神や教育方針に立ち返って日頃の教育を見つめな おしました。

- ◎教育理念と教育方針をふまえて日頃の教育活動を実践しようとしてきました。 学校評価(教員による自己評価)アンケートで、「建学の精神」や「教育方針」について教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行っているかを尋ねています。結果、5段階で3.9、3.8と昨年度と変化はありまさらに、あらゆる場面でこれらの理念をふまえた教育が実践されるよう努力していく必要があります。
- ◎教育目標として、確かな学力の習得・社会性の獲得・豊かな心の育成・進路目標の実現を掲げていますが、教科指導・生活指導・部活動・行事活動・進路指導等において指導の成果が出るよう努めています。学校評価アンケートでは教科指導は4.0、生活指導は4.1、生徒会活動は4.3、進路指導は4.2で、いずれも前年比−0.1となっています。それぞれの指導内容と成果の向上を図るべくさらに努力していく所存です。

(2)総合コースの特色強化

- ①基礎学力の習得を目標とし、基礎基本を重視した分かりやすい授業の実践を心がけて指導しています。放課後の基礎学習を実施することにより、単位が修得できない生徒を減少させることができました。
- ②社会力の育成として、基本的生活習慣の定着を図る指導とともに、挨拶・服装・出席・態度 の指導を粘り強く実施することができました。
- ③魅力ある選択科目として茶道・華道、調理実習、芸術、国際理解等を実施し、生徒の興味関 心に応える指導を行いました。
- ④検定試験の支援として、英検・漢検その他を勧めていますが、積極的に挑戦する生徒が少ないのが現状です。パソコン検定については情報クラスの生徒が意欲的に挑戦しています。
- ⑤進路目標の実現のためにキャリア教育を推進しました。1年生、2年生では進路ガイダンスを実施し、3年生では就職希望者対象に企業でのインターンシップを一部実施しました。

(3) 保育コースの充実

- ①保育活動の強化のために幼稚園で体験実習を行い、また保育発表会の充実を図りました。
- ②短大連携授業をこれまでどおり実施しましたが、今後は保育基礎科目の内容改善を図り、 一層の充実を目指します。
- ③保育検定に向けた指導を行い、受検の推進を図りました。3年生では1級合格が生徒全体の26%(昨年2%)、2級合格は49%の生徒が取得することができました。

(4)特進文理コースの進学実績の向上

- ①学級編成の基準改善を図ろうとしましたが、中学校との関係や募集人数との関係で入試段階でのレベルアップを図ることは実現できませんでした。今後とも改善に努力します。
- ②教科指導と進路指導の強化、講習体制の充実を図り、進学指導してきました。 主な大学進学者は、国公立大学へ7名(過年度生1名含む)(昨年4名)、関関同立へ7名 (昨年8名)です。さらに指導強化と実績の向上を目指さしていきます。

(5) 高大・高短の連携強化と内部進学者の拡大

- ①連携講座・説明会等の充実を図り、短大・大学の多様な教育内容の紹介を通して意欲・関心 を高め、内部進学者が増加するよう進路指導してきました。
- ②大学進学者は15名に止まりました。意欲・能力のある生徒をさらに多く進学させることができるよう高校の指導を強化しなければなりません。短期大学については進学者が120名となり目標を達成しました。しかし、ライフデザイン総合学科への進学者は37名(昨年度49名)に止まったことから、今後一層連携指導を強化する必要を感じています。

(6) 部活動の充実と成果

①部活動の充実を目指してきましたが、各部における技術向上だけでなく、学習・生活・行事 等において、部員は他の生徒の模範となる行動を取ることができており、このことにより学 校全体の規律向上に貢献しています。 ②部活動の成果向上を目指した結果、吹奏楽部をはじめ、ソフトボール部、バレーボール部、 ダンス部などで目ざましい成果を挙げることができました。また、府下の体育総合では 第4位の成績を収めました。

(7) 新校舎の建設準備

- ①増加する生徒数に対応するために、新校舎の建設を進めていますが、完成するまでの期間、 図書室内に2教室を増設しました。
- ②本館の教室整備や空調設備の新調を図り、教育環境を整えました。今後さらに、学習環境・部活動環境を整え、生徒の希望に応えることが望まれます。
- (8) 生徒募集対策の一層の充実・強化
 - ①学校案内の内容改訂を実施し、特色・魅力をさらに強調しました。
 - ②学校見学会を7回実施しました。参加者は合計2,023名となり、昨年比338名増となりました。参加者の志願率向上(専願志願者の60%が見学会参加者)は今後の課題です。
 - ③中学校訪問を強化し、訪問校288校、延べ456回訪問しました。
 - ④入学予定者450名を目標としていましたが、昨年度より57名増えて525名の新入生を受入れることとなりました。

■中学校

(1) 中学校の目標

建学の精神「報恩感謝」の下、楽しい学校・温かい学校作りに取り組みました。 中学校3年間において、基本的な生活習慣、確かな学力、共生の心を身につけさせると共に、 個性を伸ばし個々の進路目標を達成させ、激しく変化する現代社会に順応できる柔軟かつ逞し さを持つ子供の育成に力を注ぎました。

また、開設2年目を迎えた6年一貫コースは、出てきたばかりの若い芽を厳しく大切に育て、 生徒及び教員は、6年一貫コースと既存の3年コースの交流・相互理解・和を深めつつ、それ ぞれのコースの目標達成に全力を尽くしました。

さらに、財政面においては補助金の削減もあり、定員の確保、教育関係以外の諸経費の削減・ 抑制等に努めました。

以上の目標達成に向けて努力を積み重ねた一年間でしたが、ほぼ目標を達成した項目、なかな か改善が出来なった項目などあり、しっかりと顧み、不充分な項目についてはよりしっかりと 次年度に取り組みたいと考えています。

(2) 具体的な目標とその概評

- □目標(1)教員組織力の向上と教員一人ひとりのスキルアップ
 - ①教員みずから模範を示し、全教員が同一歩調での指導(挨拶・遅刻・言葉遣い・提出期限・ 節約など)

若い教員が増え、その指導に努めましたがまだ十分で無い部分があります。教員間でお 互いに注意し合うことも含めより強化していきます。反面、子供たちへの指導は全教員 の足並みは揃っていました。各教員により一層の自覚を促したいと考えます。 ②自己研鑽のための研修会・学習会への参加奨励

自己研鑽の研修会参加は過去最高となりました。また教科の学習会・講演会への参加も 奨励しました。参加した教員のスキルアップには繋がりましたが、これら研修の成果を 全教員で共有し、生徒に還元する点においては十分とはいえない部分があります。 今後は発表、報告や質疑の機会を与えるなど情報を共有できるようにしていきます。

- ③教材研究の徹底及び分かりやすい授業を行うための創意工夫
 - 個人・教科間で連携しながらの教材研究や創意工夫は努力が見られました。IT機器を使用し、また、他の授業を参観することもしばしば行われました。より一層、IT機器の使用・授業見学を進めていきます。
- ④的確な生徒・保護者への対応及びクラス運営の研究・模索 進路指導や生徒指導は、学習会や指導委員会を開き、共通理解と同一指導を徹底することに注力しました。
- ⑤教員組織の協働体制の確立(学年・教科間・担任間などの充分な連携) 学年間・教科間・担任間での連携は出来ていますが、学校全体の協働体制については十 分でない点があり今後の課題です。
- ⑥若手で構成する中学校青年部からの意見を吸い上げる為、23年度は5回、定期考査後に会議を持ちました。時間割変更で自習をなくすことから生じる問題、生徒会の自主的な活動の推進、不登校生徒対策、7限授業の是非、クラブ活動の在り方などが議論されました。

□目標(2)基本的な生活習慣の育成

①挨拶の励行

生徒会役員及び担当教員による毎朝の校門指導、不定期的な下校指導や朝終礼時・授業時など、年間を通して挨拶励行に努めました。

②時間を守ろう

ノー・チャイムを導入してから時間はほぼ守られています。朝の読書タイム時の教員の 巡回などで遅刻も少なくなりました。また、正味50分の授業実施のため、教員も早目 に教室に行くように心掛けており、生徒もそれに呼応出来ています。

③欠席・遅刻をなくそう

健康係と保健室を中心に健康指導に努めています。欠席や遅刻の多い生徒に対しては 担任による面接や保護者との十分な連携をしています。

必要に応じて家庭訪問も実施していますが、不登校生徒の支援・対策は学年・生徒相談・ICP(四條畷学園臨床心理研究所)・保健室との連携を密にして指導しています。

4)登校・下校時の交通マナーの指導

自転車通学は禁止していますが、距離によっては届け出により許可しています。そのために安全講習及び乗車マナーを指導しています。最近、自転車側の加害事故が増加しているため、今年度より自転車保険の加入を義務づけました。

⑤思いやりの心の育成

東日本の震災のボランティア活動を中心に推進しました。募金活動・文化祭における寄せ書きや折鶴・展示・講演会などを通して、思いやりの心の育成に努めました。 また、生徒会を中心に活発な活動を展開し、大いに成果が上がりました。

⑥美しい環境つくり

生徒会による美化コンクールを実施し、校内美化に努めました。

□目標(3)学力の習得・進学実績の向上

「わかりやすい授業」の展開については昨年と同程度に達成度できましたが、一部の生徒に 学力差が見られるため、より一層の創意工夫が必要となりました。同一教科内及び教科間の 連携・教材の精選・習熟度別授業の実施と共に、放課後の補習などで対応しました。

また、英語検定・漢字検定・数学検定への指導と受験を勧め成果を上げています。 高校進学に関しては、主な実績は以下のとおりです。尚、今後、公立前期の文理学科の 受験に一層注力していきます。

《3年生の主な高校合格状況》

[私立] 内部進学55、大阪星光1、灘1、東大寺2、洛南2、西大和3 清風・清風南海3、帝塚山12、奈良学園2、京都女子4、四天王寺3 明星5、開明2、大阪桐蔭14、関西大学第一3、同志社2、立命6 近大附属11など

[公立] 四條畷16、大手前5、天王寺2、大阪市立東6、寝屋川2、牧野1、交野4など

□目標(4)3つのコースの目標と魅力つくり

- ①英数コース(3年コース) ⇒勉強とクラブ活動の両立を目指すコース 各種講習の実施・早朝テスト・習熟度別授業を実施しました。
- ②英数発展コース(3年コース) ⇒私立・国公立の難関高校への進学を目指すコース 授業の進度と深度に重点を置き、各種講習や習熟度別授業、土曜日午後の授業などを 実施しました。
- ③中高一貫コース(6年コース)⇒社会で活躍できる人材の育成を目指すコース 選抜・進学に分かれての習熟度別授業、また社会人講座、自分プロジェクト、社会見学 勉強合宿、放課後の自学自習などを実施しました。

□目標(5)心身の鍛錬と好ましい人間関係の育成

①クラブ活動の活性化

近畿大会、全国大会に出場や私学大会女子総合第3位など例年以上の成果を上げることができました。

クラブ活動を通して、技術の向上はもちろんですが、人間関係・体力向上・忍耐力・ 礼儀・規範精神などの育成に力を注ぎました。

②多彩な学校行事

体育会・文化祭・宿泊研修・修学旅行・耐寒オリエンテーリング・地下鉄オリエンテーリング・スキー教室などやニュージーランドの姉妹校への海外短期留学など多彩な行事を行うことにより生徒達に様々な経験や体験をさせています。



□目標(6)入学試験制度及び生徒募集活動の見直しと課題検討

①生徒募集対策の見直しと課題検討

年4回実施している校内入試説明会は、プレテスト実施(2,3回目)は例年通りでしたが、1~4回の開催に関連性を持たせました。また、参加した児童には激励の葉書を郵送しました。塾訪問は全員で担当すると共に、複数回の訪問を実施しました。

②広報媒体の検討

ホームページや各種進学雑誌でのPRを強化し、一方、新聞広告などを縮小しました。

③入学試験関係

1次試験やプレテストなど例年通りとしましたが、2次A日程を早めると共に今年度初めて午後から試験を実施しました。また、1次試験は、試験当日の夕方にはホームページにて合否を発表しました。

④志願者数について

昨年と概ね同数の総計248名の志願がありました。入試の結果、194名(英数 119、発展35、6年一貫40)の入学者数となりました。6年一貫コースについては募集定員を充足しませんでしたが、Ⅰ期生27名、Ⅱ期生35名、Ⅲ期生40名と入学者は年々増加しています。

□目標(7)高校・小学校との連携強化

①高校との連携

内部進学者数を増やすために、6年一貫コースの相互理解や連携可能なクラブ活動の交流を促進しました。特に、吹奏楽部、ソフトボール部、水泳部、バレーボール部、バドミントン部など活発な高校クラブ活動を通して内部進学者数を増やすことも今後の課題です。

②小学校との連携

入試説明会は児童対象を3回、保護者対象を2回実施しました。また、内部進学については小学校と中学校で連絡会を年6回開催し、相互理解に努めました。学園小学校の保護者面談の際に進学相談コーナーを設け、また、中学校教員による授業や体験授業を実施してPRに努めました。

■小学校

(1)環境・設備の充実

①教材園外壁の整備

花壇周りに柵を設置しました。それ以外は現状のままです。現在小学校南側に道路を拡張する計画があります。大がかりな整備は、今後その計画が具体化してから検討していきます。

②トイレ環境美化

老朽化した2・3階のトイレの手洗い場を改装しました。これにより歯磨き指導が容易になりました。

③ICTの充実

23年度はプロジェクターを4台増やしました。各階の教室(7クラス)に2台ずつの割り当てとなりました。

(2) 規律遵守・意識レベル向上

①言葉づかい

年々、児童の言葉づかいは向上していますが、正しい敬語の使い方が身に付いていない児童も見受けられましたし、時には乱暴な言葉づかいをする児童もいました。模範となる教員の言葉づかいの徹底、国語の授業を利用した敬語の学習、「マナー表」を用いた自己評価、言葉づかいを教材とした道徳授業などを通して、相手の気持ちを考えた丁寧な言葉づかいが定着するように指導を継続します。

②整理整頓

年々、向上を見せていますが、まだ徹底できていません。アンケートなどから教職員の教室内の整理整頓についての問題意識が低いことがわかりました。教員自らが整理整頓の模範を示しながら、以前にも増した細やかな指導をしていきます。

③交通機関でのマナー

地域会や道徳の時間に、電車・バスでのマナーについて指導をしてきました。また、教員が交替で下校時に駅まで赴き、安全確認とマナー指導を行いました。マナー違反による登下校中のトラブルは根絶しなければなりません。教員の見回り回数や方法を改善し、引き続き安全面を含めたマナーの向上に努めます。

4)挨拶励行

あいさつに対する意識がかなり向上しました。朝、元気よくあいさつできる児童、廊下や 階段で教員や訪問者にあいさつができる児童が増えました。今後も継続的に指導を続けて いきます。大きな声で、相手の目を見てあいさつができるよう指導します。

⑤携帯電話のマナー

NTTに要請し、6年生児童を対象とした「携帯電話安全マナー教室」を開講しました。 保護者に対しては学校通信やPTA学級懇談会を利用して、携帯に関するトラブル防止を 呼びかけました。ルールを守れない児童は、学級担任を通じて保護者に連絡し、学校と保 護者が一体となって指導に当たりました。

(3)教育レベルの向上

①国語科教育

学年ごとの「ワークシート」を用いたプランを作成し実践しながら、6年間を見通した指導計画を改善しました。また、外部講師を招き、読解文の研究を行い、授業に役立てました。

2算数科教育

カリキュラム改善を継続的に討議しました。まだ検討課題も多くあり、今後さらに討議を 重ねていきます。また、ゲームなどを使った算数指導法や算数教具の開発を行い、授業時 間や休み時間で活用しました。

③社会科教育

社会科授業の指導力向上に努め、教科研究会で各学年ごとのカリキュラムについて話し合いました。各単元のまとめとして行う「発展的な学習」の内容をより効果的なものにする ため、研究を進めました。

4研究授業

全職員が年間を通して、校内研究授業を行いました。指導案や授業実践をグループで討議し、検討しました。個々の授業力や指導力の向上と、学校全体のレベルアップ向上に成果が見られました。

次年度は、全国に向けた公開研究会と校内研究授業を軸にして、教員の技術向上と授業内容 の充実を図ります。

⑤課外教室

そろばん教室のクラスを、学年別から初級・中級とレベルに合わせたクラス編成にし、希望者がスムーズに受講できるようになりました。体操教室は小学校体育館で広々と行えるようになり、内容も充実しました。

算国教室は講師が3人交代し、学習内容のレベルアップを図りました。長期休業中の補習が 充実し、成績相談も学年に応じた柔軟な対応ができたので、保護者から好評を得ました。 ATR英語塾では、スカイプを用いた、アメリカにいる英語教員との双方向授業を、日本 で始めて実施しました。

(4) 中学・幼稚園との連携強化

①幼稚園内部進学の推進

幼稚園・小学校で協議会を開きました。小学校の入試に関する情報や要望も詳しく伝え、相 互に理解できるよう努めました。

②中学内部進学の推進

6年生になった時点で進路指導を行いましたが、昨年に比べて外部中学進学者が増え、内部中学、特に6年一貫への希望者が減りました。次年度は、希望進学先よりも先に、内部志望 (コースを含めて) か外部志望なのかという調査を、もっと早い時期に行う予定です。

(5)募集広報活動の充実

塾を中心に講演会や入試説明会を行いました。塾や幼児教室と本校との連携を図り、塾から多くの児童の推薦をいただきました。また、在校生の保護者が、本校を希望される方に、ロコミでの宣伝をおこなってくださいました。また、随時学校見学も受け付けました。

(6) 児童募集

平成24年4月の入学者は102名でした。

■幼稚園

(1) 正課への取り組み

①「全員ができる」保育の実践

学年毎、科目毎に園児の達成すべき水準を明確に規定し、保護者に公開しました。そして、全園児がこの基準をクリアできるよう教職員一同チームとして取り組みました。

②合奏への取り組み

合奏は音楽の楽しさを子どもたちに知ってもらうだけではなく、協調性や役割分担の大切さ を理解し、また、責任感を醸成するために行なっています。2月に1年間の成果を発表する 「発表会」において年長児は学年全体で合奏を披露しました。

(2) プレスクール (未就園児教室) への取り組み

①入園者数・入園率の増加

プレスクール在籍者を増やし、かつ入園に繋がるようプレスクールの募集定員を大幅に増やしました。また、プレスクール在籍者の入園率を上げるため、幼稚園行事への参加、幼稚園教諭のプレスクールでの直接指導、園児との交流機会の増加等幼稚園との接点を増やしました。この結果、プレスクール生116名中101名の入園となり昨年よりも大幅に増加しました(入園率87%)

②後期プレエクササイズ (後期体操教室)

平成23年度より、入園予定者についてプレエクササイズの受講を必須としました。入園前の半年間、プレエクササイズに通うことで、子どもの社会性、協調性が培われるとともに、 友だちも増えます。このことにより、いわゆる手のかかる子どもがいなくなり入園後はすぐ に通常の保育が開始できます。さらに、園児の成長も早くなります。

(3) 早朝預かり保育の開始

フルタイムで働く保護者の希望に応じるため朝7時から子どもを預かる「早朝預かり保育」を 実施しました。通常の預かり保育と合わせれば朝7時~夕方6時半まで子どもが幼稚園内にい ることが可能となりました。平成23年度は8月等の夏休み期間を含む年間215日実施しま した。延べ利用人数は830名、実利用人数は70名でした。

(4) 収益事業への取り組み

1)課外教室

水泳・音楽・英語・体操・書道教室等を開講しています。参加者は全園児405名中355名にもなります。特に体操教室の参加者が年々増加しています。また、課外教室に参加することで預かり保育にも参加する園児が多く、収益に大きく寄与しています。

②通常保育の写真販売

通常保育場面を撮影した写真をインターネットにて販売する機会を増やしました。撮影は保育の邪魔にならないように配慮して行なっています。これにより、保護者に保育の様子を適宜知らせることができます。また、売上の一部が園に提供されます。園ではこの全額を通常の図書費に加え図書の購入に充当しました。

(5) 教職員の能力向上

①新任教員

新任教員には専属の先輩教員を1対1でアサインしてきめ細かいOJTを実施し、新任教員の育成、早期の戦力化に努めました。また、経験豊富なOJT教員がいることで、保育上の課題にも適切に対応することができ、また園の教職員全員で新任教員を育てる意識が醸成されました。

②学年会議、ステップアップ会議の活用

学年主任を中心とした学年単位の「学年会議」、できない子をできるようにするための「ステップアップ会議」を定期的に、または適宜に開催しました。これらの会議を通して教職員がお互いに積極的に意見交換を行い、課題を共有化できたことで園全体がひとつのチームとして動くようになりました。

③フリー教職員・管理職の戦力化

フリーのベテラン教職員と管理職 2 名には、大所高所から各担任の保育をサポートし、担任 が気付かない点を自らの経験や知識から指導することが要請されています。 そのため、必要に応じて園長が直接指導し、またそのように動けるよう役割をアサインしました。

(6) 園児募集

- ①平成24年4月の入園者(年少児)は135名でした。
- ②保育水準の向上に経費を使うため募集経費は極力圧縮しています。また、園児募集は通常保育の中身をよく理解し、知ってもらうことが肝要と考え、通常保育をそのまま見てもらう方式の見学会や保護者の参観、そしてプレスクールに注力しています。
- ③昨年度まで学園卒業生の子弟や在園児の兄弟が優先的に入園できる優先枠を設けていましたが平成23年度より廃止しました。優先枠を廃止し、プレスクールの在籍を重視しています。平成23年度はプレスクールに在籍していれば、当学園の教育方針に賛同されていると認められる方は全員入園していただきました。

3. 平成23年度決算の概要

平成23年度決算の概要を前年決算との対比で、以下の通り説明します。

(1)消費収入について

①学生生徒納付金

授業料は大学、高等学校、中学校、幼稚園の学生・生徒・園児が増加したことにより増加 しましたが、大阪府就学支援補助金を補助金として計上する会計上の変更がありましたの で、約61百万円の減少となりました。

入学金は大学、高等学校、中学校の学生・生徒が増加したこと等により約12百万円増加 しました。

施設設備資金は大学の対象学年が1~4回生まですべて揃ったため約11百万円増加しました。

②寄付金

一般寄付6百万円、現物寄付4百万円の減少により約10百万円の減少となりました。

③補助金

国庫補助金は大学の施設設備補助金と高等学校の空調の補助金が無くなったこと等により約21百万円減少しました。

大阪府経常費補助金は大阪府就学支援補助金を学生生徒納付金から補助金として計上 する会計上の変更等のため約55百万円増加しました。

④資産運用·売却収入

有価証券の売却等により約11百万円増加しました。

⑤事業収入

補助活動収入、APEX預かり金の振替え、北条食堂・学園カフェの自営化により約37百万円増加しました。

6雑収入

退職金財団交付金等により約87百万円増加しました。

⑦基本金組み入れ

第二飯盛嶺校舎の建築等により約541百万円の組み入れを行いました。

(2)消費支出について

①人件費

退職金・退職給与引当金の増加、中高一貫コースの教員採用、本部職員の採用、定期昇給 等により約147百万円増加しました。

②教育研究経費

リハビリテーション学科開設時の機器備品の償却完了等により約24百万円減少しました。

③管理経費

補助活動費用、人事制度見直しのコンサルタント料の支払い等の為約28百万円増加しました。

4資產処分損

有価証券の処分損等で約234百万円計上しました。

以上より、平成23年度の消費収支は約168百万円の支出超過となりました。

23 年度 消費収支計算書

平成23年 4月31日 から 平成24年 3月31日 まで

	1.消費収支の予算比較 消費収入の部		23年度決算	23年度2次補正	差 異	22年度決算	(単位 千円) 差 異
	科		(E)	(F)	(E)-(F)	(G)	(E)-(G)
1	学生生徒等納付金		2,382,811	2,380,255	2,556	2,417,414	△ 34,603
2	授業料		1,983,448	1,981,855	1,593	2,044,608	△ 61,160
3	入学金		277,150	276,920	230	265,480	11,670
4	実験実習料		80,138	79,555	583	76,726	3,412
5	施設設備資金		42,075	41,925	150	30,600	11,475
6	手数料		53,701	53,307	394	52,281	1,420
7	寄付金		7,931	10,076	△ 2,145	17,951	△ 10,020
8	補助金		970,109	983,795	△ 13,686	936,547	33,562
9	国庫補助金		110,298	127,058	\triangle 16,760	131,690	\triangle 21,392
10	地方公共団体補助金		859,811	856,737	3,074	804,857	54,954
11	資産運用収入		82,152	82,926	△ 774	85,348	△ 3,196
12	資産売却差額		13,901	8,331	5,570	0	13,901
13	事業収入		104,844	108,268	△ 3,424	67,906	36,938
14	雑収入		143,357	135,440	7,917	56,695	86,662
15	帰属収入合計	(A)	3,758,806	3,762,398	△ 3,592	3,634,142	124,664
16	基本金組入額		△ 541,275	△ 466,049	△ 75 , 226	△ 178,858	△ 362,417
17	消費収入の部合計	(B)	3,217,531	3,296,349	△ 78,818	3,455,284	△ 237,753
					_		
	消費支出の部 科目		23年度決算 (E)	23年度2次補正 (F)	差 (E)-(F)	22年度決算 (G)	差 異 (E)-(G)
20	人件費		2,497,283	2,498,694	(E) = (F) △ 1,411	2,350,519	146,764
21	教員人件費		1,996,325	1,995,983	342	1,940,845	55,480
22	職員人件費		328,280	328,228	52	306,493	21,787
23	役員報酬		18,477	18,476	1	18,241	236
24	退職金		104,479	107,374	△ 2,895	40,498	63,981
25	退職給与引当金繰入額		49,722	48,633	1,089	44,442	5,280
26	教育研究経費		973,978	950,944	23,034	998,460	△ 24,482
27	(うち、減価償却額)		400,947	404,123	△ 3,176	451,620	△ 50,673
28	管理経費		213,119	228,701	△ 15,582	184,627	28,492
29	(うち、減価償却額)		14,911	15,870		13,699	1,212
30	経常支出の部合計	(C)	3,684,380	2 15 Value de participa de maria	6,041	3,533,606	150,774
31	資産処分差額	(0)	241,915	And Articular Control of Control	3,668	7,664	234,251
32	徵収不能引当金繰入額		768	846	△ 78	978	△ 210
33	[予備費]		0	0	0	0	0
34	消費支出の部合計	(D)	3,927,063	3,917,432	9,631	3,542,248	384,815
35	当年度消費収入超過額	(B)-(D)	△ 709,532	△ 621,083		△ 86,964	
36	基本金取崩額	(B) (B)	121,222	0	121,222	68,600	52,622
	States 1 states 0 570 a 500			-	,	,	
40	帰属収入-消費支出 (A)-(D)		△ 168,257	△ 155,034	△ 13,223	91,894	△ 260,151
41	帰属収入-経常支出 (A)-(C)		74,426	84,059	△ 9,633	100,140	△ 25,714
42	減価償却費·資産処分差額 等 差引前収支		490,284	504,052	△ 13,768	565,459	△ 75,175

貸借対照表

平成24年 3月31日

(単位	田)
1 + III	1 1/

資産の部				(単位 円)
科 目	本年度末	前年度末		増 減
固定資産	11,450,133,341	11,925,717,723	Δ	475,584,382
有形固定資産	8,485,408,532	8,432,783,094		52,625,438
土地	364,003,596	364,003,596		0
建物	6,864,055,090	7,160,946,867	Δ	296,891,777
構築物	339,599,952	369,838,344	Δ	30,238,392
教育研究用機器備品	247,935,576	284,259,147	Δ	36,323,571
その他の機器備品	32,297,802	37,088,185	Δ	4,790,383
図書	218,369,977	216,601,190		1,768,787
車輌	6,539	45,765	Δ	39,226
建設仮勘定	419,140,000	0		419,140,000
その他の固定資産	2,964,724,809	3,492,934,629	Δ	528,209,820
有価証券	2,333,267,536	2,858,050,144	Δ	524,782,608
退職給与引当特定資産	581,475,977	584,703,189	Δ	3,227,212
保険積立金	49,981,296	49,981,296		0
敷金·保証金	0	200,000	Δ	200,000
流動資産	2,398,803,807	2,146,635,909		252,167,898
現金預金	1,319,847,575	960,753,757		359,093,818
未収入金	261,728,526	93,416,965		168,311,561
貯蔵品	100,510	116,920	Δ	16,410
有価証券	737,361,111	1,020,077,899	Δ	282,716,788
前払金	14,967,484	10,841,848		4,125,636
立替金	678,001	312,616		365,385
仮払金	4,539,674	2,763,000		1,776,674
修学旅行費預り預金	59,580,926	58,352,904		1,228,022
資産の部合計	13,848,937,148	14,072,353,632	Δ	223,416,484

負債の部				
科 目	本年度末	前年度末		増 減
固定負債	581,475,977	584,703,189	Δ	3,227,212
退職給与引当金	581,475,977	584,703,189	Δ	3,227,212
流動負債	642,829,274	694,760,354	Δ	51,931,080
未払金	76,993,960	127,362,907	Δ	50,368,947
前受金	470,662,980	464,845,220		5,817,760
預り金	35,834,934	43,960,347	Δ	8,125,413
修学旅行費預り金	59,337,400	58,591,880		745,520
負債の部合計	1,224,305,251	1,279,463,543	Δ	55,158,292

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	15,341,697,689	14,921,644,654	420,053,035
第1号基本金	15,110,697,689	14,690,644,654	420,053,035
第4号基本金	231,000,000	231,000,000	0
基本金の部合計	15,341,697,689	14,921,644,654	420,053,035

消費収支差額の部					
科目		本年度末		前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	Δ	2,717,065,792	Δ	2,128,754,565	588,311,227
消費収支差額の部合計	Δ	2,717,065,792	Δ	2,128,754,565	588,311,227

科目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	13,848,937,148	14,072,353,632	△ 223,416,484

^{学校}四條畷学園